

近世哲学研究

第 3 号

-
- | | | | |
|---|----|-------|----|
| 『全知識学の基礎』の到達点 | —— | 子野日俊夫 | 1 |
| 読書人世界から学者共和国制度へ
——理性を制度化しようとしたカントの試み—— | —— | 福田喜一郎 | 21 |
| デカルトにおける愛の区別について | —— | 武藤 整司 | 40 |
| 未 済 の 人 倫
——『精神の現象学』主 - 奴論の一解釈—— | —— | 石田あゆみ | 63 |
| ガダマーのディルタイ批判
——『真理と方法』を中心に—— | —— | 折橋 康雄 | 87 |

1996

Epistola IX

京大・西洋近世哲学史懇話会

編集後記

本誌『近世哲学研究』は、言うまでもなく会員諸氏と、その他の好意ある購読会員の方々のもとに毎号届けられているが、実は創刊号以来、京大生協の書籍部と、もう一軒市中の大手書店にお願いしてその店頭の一角に置かせてもらい、これまで毎号、ほんの少しずつではあるが売れている。

ところで、この書店の店員さんの話によれば、同店ではこの種の雑誌を数多く預かっているが、本誌はその中でもはまだしも、売れる方であるとのことである。つまり、当世風の、気の利いたタイトルの雑誌が思いのほか多くは売れないのに対して、『近世哲学研究』はむしろ大健闘だということである。恐らく、このような専門的で、一見堅いが、しかし目的が明確で、内容的にもしつかりした雑誌がかえって売れるのです、というのがこの店頭子の言なのである。これはまったく意外で少々驚かされることだが、事実だとすれば、われわれにとつて——その売れる数のことは今は不問にしよう——まことに喜ばしい、また力づけられる話であると言つてよい。

本号には、依頼・応募を合わせて五篇の論文を収めることができた。フランス哲学関係の論文は今回が初めてであり、全体として内容的にも多彩なものを含んでいる。いつ

もながら、執筆の各位に厚く御礼を申し上げるとともに、応募論文の審査にご協力いただいた方々に深謝いたしたい。また今回より編集委員の一部が交替したが、先任の方々のご苦勞にもここで心から謝意を表したい。本誌が、世に言う「三号雑誌」の閥門をくぐり抜けて、次号よりさらなる充実への道を進むことを心から念願し、いつその御支援の程をお願いする次第である。

編集委員会

代表	委員	協力
藪田 坦	安藤 正人 早瀬 明	田中 敦 倉田 隆
	橋本 武志 次田 憲和	

執筆 者 紹 介

子野日俊夫	岡山県立大学助教授
福田喜一郎	鎌倉女子大学助教授
武藤 整司	高知大学助教授
石田あゆみ	岡山大学講師
折橋 康雄	京都教育大学非常勤講師

(執筆順)

近世哲学研究 第3号

1996年12月20日 発行

編集・発行 京大・西洋近世哲学史懇話会
編集代表 藺田 坦
〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
西洋近世哲学史研究室内
T E L (075)753-2813
振替 01080-3-31430

印刷所 協和印刷株式会社
〒615 京都市右京区西院清水町13
T E L (075)312-4010(代)

定価 1200円(本体 1166円)

STUDIES
in
MODERN PHILOSOPHY

No. 3

Toshio NENOHI	: Der eigentliche Endpunkt von „ <i>Grundlage der gesamten Wissenschaftslehre</i> “	1
Kiichiro FUKUDA	: Von der Leserwelt zur institutionalisierten Gelehrtenrepublik ——Kants Versuch, die Vernunft zu institutionalisieren——	21
Seiji MUTÔ	: De la distinction de l'amour chez Descartes	40
Ayumi ISHIDA	: Verzicht auf Sittlichkeit ——Eine Interpretation des Problems von Herrschaft und Knechtschaft in der <i>Phänomenologie des Geistes</i> ——	63
Yasuo ORIHASHI	: Gadammers Kritik an Dilthey	87

1996

Epistola IX

Published by
The Society for The History of
Modern Philosophy
at Kyoto University